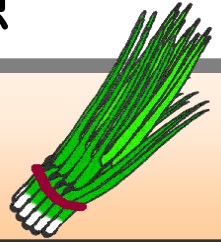


水耕ネギ根腐病の発病菌密度と伝染源

水耕栽培ネギに大きな被害をもたらす根腐病は、**ピシウム菌**（水カビの仲間）がネギの根に感染することで発生します。そこで、発病を引き起こす**病原菌密度**と**伝染源**を調べました。



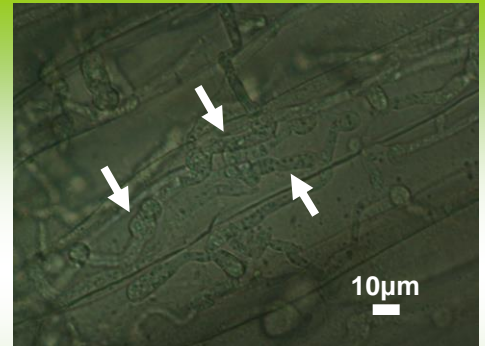
ネギ根腐病



根腐病で枯死したネギ苗



根と葉が腐敗した収穫株



ネギの根に侵入したピシウムの菌糸

ネギ根腐病は**ピシウム菌**が根に感染し、株が腐敗枯死します。

発病を引き起こす菌密度

ネギが感染するピシウム菌の密度は
播種後6日の苗で 0.02 個/ml
播種後22日の苗で 0.002 個/ml です。

本病は**極めて低菌密度**で感染します。

⇒ 徹底した対策が求められます。

表1 ネギ根腐病菌の菌密度と感染株率

菌密度 個/ml	感染率株%	
	6日苗	22日苗
20	28.6	65.2
2	26.3	52.4
0.2	5.9	23.1
0.02	4.5	35.3
0.002	0	29.4
0	0	0

伝染源

ネギ種子

⇒ ピシウム菌は検出されませんでした。

定植パネル

⇒ **発病株があった定植パネルは、洗淨しても次の作の感染源となり得ます。**

表2 発病株があった定植パネルでのネギ根腐病の感染

パネルNo.	パネルの洗淨	感染株率%
1	なし	50
2	あり	28
3	あり	6
4	あり	44
5	あり	89
6	あり	33
7	あり	11
8	あり	17
9(新規)	なし	0

注) パネルの洗淨は塩素殺菌と水洗いによる

今後は、定植パネルの消毒方法について検討する予定です。